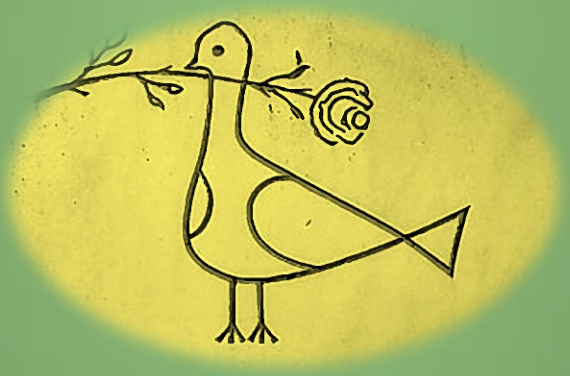
カルメル

霊性センターニュース



2022年11月　　３９１号

１１月号　【教会からの巻頭のことば】

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12 章 21 節)

「死者の月に…」

教皇ベネディクト十六世　回勅　『希望による救い』より

死んだ人の魂は、聖体と祈りと施しを通じて「安らぎと慰め」を得ることができます。愛は死後にも及ぶことができること。人は与えあうことが可能であり、その際、互いの愛のきずなは死を超えて継続すること。このようなことに対する信仰は、世々を通じてキリスト信者の根本的な確信となってきましたし、今も慰めを与えてくれます。この世を去った愛する人に、いつくしみと感謝を示し、また、ゆるしを願い求める必要を感じない人がいるでしょうか。

目次

教会からの巻頭の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・1

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

通信深読お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・２４

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・２５

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３

郵送お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・・・３８

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９

心の泉

宇治カルメル会修道院

第三巻

第五十章　悲しみもだえる時、人はすべてを神のみ手に任せるべきである

４　苦しみの恵み

主よ、あなたを愛する者にとって、あなたへの愛のために、この世において、み旨による人と時とに苦しめられることこそ、大いなる恩恵と言わなければなりません。あなたの許可と摂理と、何か正しい理由なしには、何一つこの世に起こり得ません。主よ、私を卑しめてくださったのはよいことでした。それによって私は、あなたの正義の定めを悟り(詩編119・71参照)、すべての高慢と自負心を脱ぎ捨てることができました。恥辱に赤面したことは、私にとって有益でした。それは、人間ではなくあなたに慰めを求めることを教えられ、つねに正義と公正とをもって、悪人を利用して正しい人に試練をお与えになる、あなたのはかりがたい定めを知ることができたからです。

５　厳しさへの感謝

私の罪を容赦せず、苦しみで私を突き通し、外部的にも内部的にも苦痛を与えて、厳しく鞭打(むちう)ってくださったことを感謝いたします。あなたは人を打ちたたいた後に、治し、「冥府(よみ)の門に連れ去って、また連れ帰る」(トビト13・2)のです。主よ、私の神よ、霊魂の天の医者であるあなた以外のどんなものも、私を慰めることができません。あなたは、み教えをもって私を導き、罰をもって私に教えてくださいます。

６　神の教育

愛するおん父よ、私はあなたの手中にあります。あなたのこらしめの鞭のもとに、わたしはひれ伏します。私の背と首とを打ってください。そうすれば、罪に迷いやすい自分を、あなたのみ旨に向き変えさせることができます。あなたの恵みによって、敬虔な謙遜をお与えください。そうすれば私は、あなたの指図に従って歩みます。私のすべてをお任せします。あなたが、私をこらしめ導いてください。後の世ではなく、この世で罰せられるほうがよいからです。あなたは、全体も部分も、すべてご存じです。人間の良心も、あなたの前には秘密をもつことができません。あなたは、将来のことを、それが起こる前に知っています。この世で起こる事柄について、知らせを受け、忠告を受ける必要がないのです。

あなたは私の霊的進歩のために何が必要かを、また罪悪のさびを取るために患難がいかに役立つかを、知っておられます。私に対して、み旨をおこなってください。そして、私の罪ある生活をごらんになっても、私から遠ざからないでください。

日々 聖霊に導かれて　　2022-11

11 月は諸聖人の祭日ではじまり、
翌日は死者の日、20 日の日曜日は王である
キリストの祭日、21 日はマリアの奉献の祭日を
祝う年間三十四週です。そして…
新しい典礼年がはじまる待降節に入ります！

自分が何もできないとき、他の人たちのわざをささげねばなりません。
それが聖徒の交わりなのです。
そして、この「自分ができない」ことについて決して悲しんではいけません。
ただ愛にだけ専念なさい。　～テレーズ～

人生の夕べには
愛についてとわれるでしょう。
～十字架の聖ヨハネ～

生産性、効率性が問われる現代社会に
どっぷりつかって生きぬき、
一見「成功」した人生も、その夕べに問われるのは
「いかに愛したか」ということであることを
忘れないでいたいものです。

とわれるのは業績でも、肩書でもありません。
ゆがんだ形の葉、成長しきれない小さな葉、虫食いの葉、
どれも美しいとは言えません。
でも、夏が終わり秋が来ると、どんな葉も一様に色づき、
太陽の光にかざされて、素晴らしい色の饗宴を
くりひろげます。

一人一人の人生の秋に神が待っておられるのは
神の慈しみの太陽に色づいた紅葉なのです。

＊「いのちの道」写真と文 伊従信子
サンパウロ出版社

インマヌエル、私たちともにある神を
日々聖霊に導かれて待ち望むことができますように。

伊従 信子（いより のぶこ）　　ノートルダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（58）

九里（くのり）　彰

前回指摘したように、「創造主への賛美」は、単なる賛美ではなく、その根底に「創造主への畏れ」を前提していると思われる。それは、アビラの聖テレジアの言葉で言えば、「謙遜」ということになるのではないだろうか。。これについては、以前、『カルメル』誌に７回にわたって論じたが、聖女の教えを理解する上で看過してはならない鍵概念の一つである。

> この、おのれを知る、ということは、大変大切な点ですから、あなたがたが、たとえ、どれほど天上的なことに高められたとしても、決してこの点をゆるがせにしていただきたくありません。地上に生きている限り、謙遜ほど私どもに必要なものはないのです。
>
> （『霊魂の城』第１の住居２・9）

ここでは自己認識と謙遜が一つにされている。それは、本当に自分を知ることは、本当に神を知ることであり、本当に神を知ることは、人を本当に謙遜にさせずにはおかないということである。

> 私の考えでは、神を知るように努めない限り、私どもは決して自分をよく知るようにはなりません。神の偉大さを眺めれば、自分の卑しさに思い当たり、神の清さを眺めれば、自分の汚れがよく見えるのです。（同）

要するに、自己認識と神認識は一つであり、神認識なき自己認識も、自己認識なき神認識も、共に不完全、未だ本物ではないということである。

> 私どもが自分自身として何もよいものを持たず、惨めさと無にすぎないということは、ほんとうに大きな真理です。（同第６の住居 10・7）

真の自己認識は、万物の主である神の前に「惨めさと無にすぎない」自分に、すなわち、罪深く卑小な自分に気づくことであり、それは神への「畏れ」を、畏怖の念を生むのである。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（173）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

忍耐の戦い⑤

この愛の種蒔きによって、ヨハネ修士は個人的な問題や困難を解決したのですが、さらには、その模範的な態度によって、ついにはその修道院長の心をつかむほどになったのです。というのも、彼は聖人（訳注：ヨハネのこと）の死に対し慙愧の念にさいなまれ、その結果、聖人の死の直後にまったく新しい人へと回心することになったからです。それは、不幸中の幸いでした。なぜなら、残念なことに、彼は一方ではとにもかくにも「当時、アンダルシア地方に花開いたもっとも博学な人間の一人」であったのですが、他方ではとても無愛想で、性格が悪く、とてもけちだったからです。最終的に、十字架のヨハネは、彼の心をとらえたばかりでなく、修道院の経済を解決し、彼に遺言状のように、次のような貧しい者のことばを残していったのです。「神は祝されますように！この修道院が必要とするものはみな手に入る時が来るでしょうから」。

涙をおさえることができなかった①

最後にマラゴンでばかりでなく、他の機会にも、彼（訳注：ヨハネ）は、涙をおさえることができませんでした。どのように一筋また一筋と彼の頬を涙がつたったのかは一考すべきでしょう。

主は、彼が熱望した困難を惜しみなく彼に与えました。二度、監禁されましたが、特に二回目のトレドに 9 ヶ月間いた時は、まさに困難と苦しみの嵐の中にいました。

第五の掟と自己保存本能が彼に課したより強い義務感によって、彼は牢獄から脱出し、逃亡します。牢獄から逃亡した後、数か月して、1578 年に彼はアンダルシアに着きます。ベアスの跣足カルメル会修道女たちの面会室で、彼の人生におけるあの痛ましい場面が起こります。

（P. 九里訳）

年間 第３２主日（ｃ）

（ルカ２０：２７−３８）

本日のルカの福音は、私たちに誰がサドカイ派の人であるかを理解させています。サドカイ派の人たちは、「復活はないと主張する」人たちです。サドカイ派の人たちは、天使や聖霊を信じませんでした。彼らは高い地位の司祭職を支配していましたが、実際は政治団体でした。彼らは、旧約聖書の最初の五冊（モーセ五書）だけが重要と感じていたようです。イエスへの狡猾な質問の中心には、「レビレートの結婚」の習慣がありました。この習慣によれば、ある人の結婚した兄弟が後継ぎを残さないで死んだ場合、家族の名前を継続する息子を造る目的だけのために、彼は寡と結婚しなければなりませんでした。

彼らとの対決で、イエスは仕掛けられた罠から賢く逃れ、死者からの復活の教えを説明します。イエスは、神は生きている者の神であり、栄光のうちにある神との天の生命はこの世での生命とは全く異なっていると話されます。この世的な意味では天には結婚はないと語られます。イエスは、復活がこの世の単なる継続ではないことを明確にされます。イエスはここで復活が全ての人のものではなく、「次の世に入ってふさわしいと判断された人だけのものである」と言われます。イエスはサドカイ派の人たちに、復活し、神との天の生活にふさわしいと神が考える人たちは天使のように死ぬことはなく、したがって「神の子ども」なのだと言われます。

キリスト者の信仰と神学の全ては、私たちの復活、報償又は罰の永遠に続く生命への信仰に基づいています。私たちは喜びに満ち、信仰深く、平和な生活を生きるように、常に復活した主の真の現存を体験するように呼ばれています。私たちは生きている神に従うのですから、私たちの全ての祈り、崇拝、そして神と隣人との交わりが生命を与えるものとなりますように。

(Sr. Paulina)

年間 第３３主日

（ルカ２１：５−１９）

イエスは言われました。「惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『わたしがそれだ』とか、『時が近づいた』とか言うが、ついて行ってはならない。戦争とか暴動のことを聞いても、おびえてはならない。」

昨今、国内では旧統一教会問題、そして世界ではウクライナでの戦争の話題が絶えません。まさにイエスは、この福音をとおして現代の私たちに語りかけているように思えます。「偽預言者について行くな」、「戦争や暴動のことでおびえるな（＝希望を失うな）」と。真の預言者はどこにいるか、戦争や暴動はどう克服し、回避できるか、それをよくわきまえなさいと呼びかけていると思います。その答えは神にある、聖書にあると。

この福音の結びでイエスは言われます。「あなたがたの髪の毛の一本も決してなくならない。忍耐によって、あなたがたは命をかち取りなさい。」

髪の毛の一本も決してなくならないとはどういう意味でしょうか。イエスは他の箇所でこうも述べています。「あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている」（マタイ 10・30）。ここで、髪の毛を数えているのは神です。神は私たちのすべてを知り尽くしているのです。だから安心しなさい、信頼しなさい、恐れてはならない、とイエスは教えているのです。したがって、「髪の毛の一本も決してなくならない」とは、神が私たちの髪の毛までも一本残らず大切にしてくださっているという意味だと思います。私たちも身近な人の髪の毛を形見として大切に取っておくことがありますが、神は私たちの髪の毛のすべてを大切にしてくださるほど、私たちを愛してくださっているということなのです。

この神こそ、決して人間をだましたり、惑わしたりすることのない方です。この神こそ、真の平和への道を示してくださる方です。この神を信じ、忍耐によって命をかち取りなさいというのが、この福音のメッセージだと思います。どんなにカリスマ性に富んだ人であっても、人間にしか過ぎない人を信じてはならないのです。また、戦争の原因も国の指導者のエゴイズムが大きく働いているのは明白です。エゴイズムを克服し、愛を生きるよう導くのが聖書です。

神を信じ、聖書の教えを生きるには忍耐が必要です。神の現存を自覚し、祈りを習慣づけ、また、聖書を読み、味わい、そこから生きる道を見いだすのは容易でありません。日々の忍耐が問われるのです。しかし、その日々の忍耐の積み重ねがあれば、私たちはやたらなものにはだまされない感覚、そして、平和への確かな道を見いだしていくことができるのだと思います。今のような時代だからこそ、忍耐して命への道を切り開いていくようにとイエスは呼びかけているのです。

（今泉健 神父）

王であるキリスト（C）

（ルカ２３：３５－４３）

母なる教会は、典礼暦最後の主日に「王であるキリスト」の祭日を祝います。１年を通じてイエス・キリストの生涯の様々な出来事を祭日や祝日として祝ってきましたが、そのしめくくりとして、イエスが主の主、王の王、私たちの永遠の王であることを祝います。

今日の福音は、十字架上の玉座に座り、楽園の御国に入る王であるイエスを描いています。十字架上のイエスの姿は、この世の王とはまったく違うイエスの王職の本質を正確にとらえています。キリストの王職には終わりがなく普遍的で完全なものであり、愛とゆるしの力によって支配します。キリストの唯一の命令は、「わたしがあなたがたを愛したように互いに愛し合いなさい」です。

福音によると、兵士たちがイエスをあざける中、同じく十字架上の犯罪人の１人もイエスをののしりました。ただもう１人の犯罪人は、磔刑に処せられるのは自業自得だと自覚しつつ、イエスに向かって偽りのない心で「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言いました。するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」とお答えになりました。これは、イエスが犯罪人に完全な救いをもたらす返答でした。イエスは、犯罪人が「いつの日か」ではなくまさにその日に天の門をくぐって楽園に住むと告げたのです。十字架上のイエスの死と、犯罪人への約束は、人類へのいつくしみ深い愛を表しています。どんなに大きな罪を犯したとしても、息を引き取る直前までキリストにゆるされて救われるチャンスがあるのです。

王であるキリストの祭日にあたり、福音は、私たちが自分の罪深さを認めて主に立ちかえり、ゆるしと永遠の命の約束を受けるように招いています。私たちには、キリストを頼りとすれば天国に迎え入れられる保証と希望があります。

(Sr.Paulina)

待降節 第1主日

（マタイ２４：３７-４４）

教会の暦は新年・待降節になりました。といっても、先週迄の教会の年の瀬の余韻を残している福音の箇所が、待降節の初めの主日の「福音」の箇所として選ばれており、終末の主の到来、キリストの再臨を待ちながら、主のご降誕の主の到来を待ち望む様に招かれます。

イエスは、「人の子が来るのは、ノアの時と同じである。」と弟子たちに語られます。ノアの時代に生きた人々は、洪水が襲ってくるということや時期について知ることなく、洪水が起こってさらわれてしまい、人の子が来る場合も、このようであると言われます。

そして畑に二人の男がいる場合、また二人の女が臼をひいている場合について話され、それぞれ一人は連れて行かれ一人が残る状況を示されます。私たちはそれがいつなのかわからりませんが、その様に自分の主が帰って来られるのがわからないのであるから、また人の子が思いがけない時に来られるのだから、目を覚ましている様に、このことをわきまえている様に、そして用意していなさいと言われます。

ノアの箱舟の話の出来事の様に、慈しみに満ちた神は私たちの滅びを望んでおられるのではなく、私たちの救いを望んでおられます。主の到来の時を待ち望みながら、常に目覚めて、常にわきまえて、常に用意しながら、キリストの再臨を待ち望みながら、新たな年、主のご降誕へと向かってご一緒に歩んでゆければどんなに良いことでしょうか。

集会祈願でご一緒に祈る様に、父よ、救い主を待ち望む心を呼びさましてください。わたしたちがキリストを日々の生活のうちに迎え、キリストと結ばれて永遠の国を受け継ぐことができますように。

いつ来られても良い様に、常に目覚めて、常にわきまえて、常に用意しながら歩んでゆくことができるのならば、私たちは決して恐れることなく、目に見えない神の御前で神とともに歩んでゆくことができるでしょう。神に信頼し、神のいつくしみにより頼み、歩んでゆくことができますように。神の恵みと祝福が豊かにありますように。

（Fr.　古川利雅）

いのちの言葉 11月

**憐れみ深い人々は、幸いである、
その人たちは憐れみを受ける。
（マタイ福音書 5,7）**

マタイ福音書の「山上の垂訓」は、イエスが、公生活をスタートしたそのすぐ後の章に記されています。新しいシナイ山を象徴する山の上で、“新たなモーゼ”であるキリストが「律法」を与える姿があります。その前の箇所では、イエスに従うおびただしい群衆、そして、彼らに教えを説くイエスのことが語られています。

しかし、「山上の垂訓」は、これらの群衆に向けられたものではなく、イエスは、特にご自分の弟子たち、さらに、後にキリスト教徒と呼ばれることになる共同体に向けてこれを語られました。イエスの話しの中心はまさに「天の国」[1]です。イエスが語るこれらの「幸い」は、言うなれば、すべての人に向けられた「公約」であり、救いのメッセージです。これらの「幸い」は「福音全体を要約するものであり、そこには、すべての人の救いを望まれる神の愛が啓示されています。」[2]

憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける

では、憐れみとは何でしょうか？　憐れみ深い人とは誰のことでしょうか？　山上の垂訓は、「幸いである」という言葉からはじまりますが、「幸いである」[3]とは、幸せである、幸運に恵まれる、神から祝福された者という意味があります。そこには「９つの幸い」が記されていますが、その中心にあるのが「憐れみ」と言えます。しかしながら、これらの「幸い」のどれをとっても、それらは報われるための行為でもなければ、姿勢でもありません。むしろ、それらは、神に似たものとなるための真のチャンスを私たちに与えてくれるものと言えるでしょう。

憐れみ深い人とは、神と隣人に対する愛で心が満たされている人のことです。自分から身をかがめ、最も小さい人、忘れられた人、貧しい人に手を差し伸べ、見返りのない愛を求める人にもそれを与える人のことです。実際、神の特性と言われるものの一つ[4]は「憐れみ」です。イエスご自身「憐れみ」そのものでおられたことからもそれが分かります。

憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける

これらの「幸い」には、私たちがもっている一般常識を覆し、一変させる力があり、決して単なる慰めの言葉ではありません。私たちの心を変え、新しい人類を創造し、福音宣教を実らせる力があります。私たちは又、自

分に対しても、憐れみをもつべきなのです。私たち一人ひとりに対して神が持っておられる非常に豊かな、計り尽くすことのできない愛を誰もが必要としているからです。

ところで、「憐れみ」[5]という語源は、ヘブライ語の rehem（子宮）に由来し、母が子をこよなく慈しむという意味があり、限りない神の憐れみを思い起こさせる言葉です。

キアラ・ルービックは語っています。「この愛はとても豊かで、限界がなく、すべての人に注がれ、具体的な形で表されます。このような愛「憐れみ」は、お互いの間に相互愛を生み出します。…どのような傷、どれほどの不正を受けたとしても、それを赦そうとするならば、きっと私たちも赦しを受けるにちがいありません。まず、自分から憐れみと、慈しみを生きることから始めましょう！もちろん、難しく勇気もいるでしょう。しかし、出会う隣人一人ひとりを前にして「もし、私がこの人の母親なら、どうするだろう?」と一瞬考えてみることは、神様の御心をもっと理解し、神さまに従って生きる上で、きっと大きな助けとなるに違いありません。」[6]

憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける

あるご夫婦の体験です。「結婚してわずか２年後に、娘夫婦は別れる決心をし、娘は我が家に戻ってきました。私たちは戸惑いながらも、忍耐をもって娘を理解しようと努め、許し、受け入れ、愛そうと心に決めました。娘だけではなく娘婿ともオープンに接するように心がけ、何よりもまず裁かないようにしました。彼らに耳を傾け、必要な時には助け、絶えず二人のために祈りました。３か月が過ぎた頃でしたが、娘夫婦は、新たな自覚と、信頼、希望のうちに夫婦として再出発することができました」[7]と。

「憐れみ」には、「赦し」以上のものがあります。「憐れみ深い人」は、他者との関係で妨げとなるものを一刻も早く消し去り解消したいと願う心の大きな人です。そして、イエスの「憐れみ深くありなさい」という招きは、私たちが本来あるべき姿に近づけるように助けてくれるものです。なぜなら、私たちはまさに「神の似姿」として造られた存在なのですから。

レティツィア・マグリ

＊いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

---

1 マタイ福音書 4,23 及び 同福音書 5,19-20 参照
2 キアラ・ルービック、いのちの言葉 2000 年 11 月
3 語源はギリシャ語 makarios/i に由来
4 ヘブライ語 *hesed* の意、見返りを求めず、温かく迎え入れ、許す愛
5 ヘブライ語の *Rahamim*
6 キアラ・ルービック、いのちの言葉 2000 年 11 月 pp. 633-634
7 体験は www.focolare.org.参照

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< Communications（時事通信）>>

2022年９月２９日

アフリカのブルンジで、
第二回 ユース フェスティバル開催

２０２２年８月２１日（土）、東アフリカの内陸の国、ブルンジ共和国の首都ギテガの”カルメルの女王聖マリア”霊性センターで、**“将来に目を向けよう。和解への共感と決意”**を主題とする第二回ユース・フェスティバルが開催されました。このテーマは、共同体使徒職の年に、週末三回行われた若者の人間性と霊性に関する養成を締めくくるテーマとなりました。このユース・フェスティバルの主題は、若者の養成から引き出された主な行動姿勢です。それは、ブルンジの過去の動乱期に蒔かれた死と恨みの残虐行為と分断の後、今の“純粋な世代”を生きる若者が抱く思いを、現在の世界観と行動において述べ伝えること。そして一致の証人となり、過去の例となる１９９７年４月３０日にブタの神学校で起きた４４名の殉教者たちに共感し、その出来事の目撃者と

して証しすること。非暴力によるコミュニケーションを率先して呼びかけ育成していくことです。

フェスティバルの多彩な催し物の準備は、青年たちの手に任されました。彼らはこのテーマに即した内容を豊かに、多様な方法でタレントを生かして、創造的なダンスや劇を演じました。青年たちの率先力は、四つの局面にまとめられます。それらは、彼らの芸術的な展開、霊的息吹の注入、次世代に影響を与える相関的能力、そして明確な目的に従いチームとなって取り組む効果的な活動です。

（翻訳：小宮山延子）

糸巻き棒からペンへ(80)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス　OCD

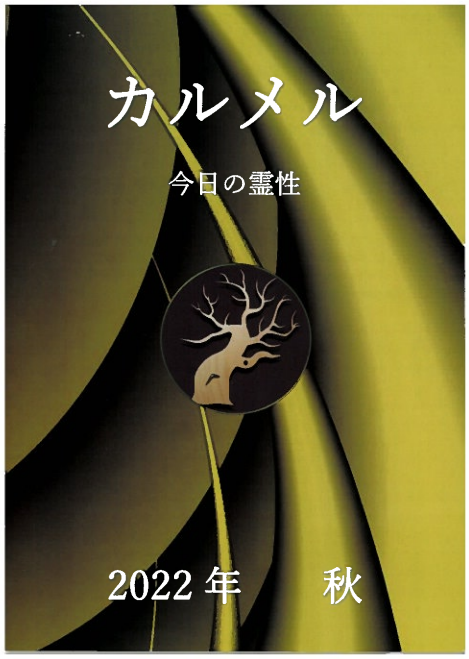
ちょうど聞いたことをそのまま繰り返す鳥が、言っていることを理解せずにそうしているように、決まりきった祈りの言葉を暗記して唱えるだけでは十分ではありません。

確かにイエスと話すための言葉にあなたがたが不足するはずはないでしょう。少なくとも私は、友として、仲間として、兄弟として、戦いの時に常にあなたの側にいる勇敢な隊長である彼と交わるだけで十分だとは思いません。私の神は決して気難しい方ではありませんし、些細なことには目を留めません。主は、多くのことを知って、多く語ることより、またきわめて洗練された論証より、しばしば貧しい農夫の女の謙遜をとても好みます。あなたに言っている事柄の中で、私たちが神ご自身と交わっていることや、神が私たちを仲間として受け入れてくださっていることや、私たちを家族の一員としてくださることに気づくことほど重要なことはありません。神と私たちとの関係においては、多く考えることではなく、多く愛することこそ重要なのです。このように、愛することにあなたがたがもっと目覚めるようなことをしなさい。気取った言葉や洗練された論証などは必要ではなく、私たちの花婿の心に謙遜さと単純さをもって語りかけるべきです。

確かに、祈りにおいて神と交わるために、霊魂は特別な条件も身体的な強さも必要としていません。実際、火を消そうと思っているとき、だれが火に藁を投げ入れるでしょうか。私たちにたくさんの愛の模範を示してくださった方と愛のうちに一緒にいようと努力することは、より大きなことであるとは、私は思いません。短い時間、私たちの心のすべてを彼に与えさえすれば、私たちの低い状態にもかかわらず、彼は私たちを受け入れてくださるのです。そして、彼と共にいようとし、愛をもって交わろうとする霊魂、すなわち私たちの霊魂を見出すために、彼はこの上なく苦しんでおり、またこれからも苦しむことでしょう。

（P.九里訳）

カルメル誌　新刊案内



2022年 秋号 No.386

エディット・シュタインの言葉 抄(三)　釘宮明美

道の霊性(続)第三回
　イエスの道の厳しさと喜び　田畑邦治

日々の出来事の中で 神の霊は導く(3)
　―テレーズ生誕(1873～1897)一五〇周年を迎えて
　伊従信子

あなたとなら どこへでも　森 みさ

キリストの説かれた 幸いなる道(7)　九里 彰

霊的研究会講義録(17)－聖書・祈り・愛について
　奥村一郎

2022年 特集号
カルメルの聖人と共に四旬節を歩む

回心の第一歩である祈り
　―アビラの聖テレジアとともに　今泉 健

三位一体の聖エリザベト
　ロス・アンデスの聖テレサとともに
　―カルメル会の若き聖人と共に四旬節を歩む
　古川利雅

膠着をときほぐすヘセド
　―エディット・シュタインと共に　志村 武

あらゆる誘惑の間を安全に歩む
　―アビラの聖テレジアと共に　ジョニー・ラマ

すべて新たに Omnes novum
―新しいメッセージ、幼きイエスの聖テレジアと共に
　ウィリー・ソバ

ご案内　1 冊 580 円　A5 サイズ　50～70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760 円【580 円（+送料 180 円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費（年 5 冊：春夏秋冬+特集号　計　3,600 円）を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457　跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25　Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新刊紹介

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシェル神父の講話 II

【出版社】 教友社
【著　者】小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）
品番/ISBN：9784907991807
発売/発行年月：2022 年 3 月
判型：A5
ページ数：184

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのざき・りょうこ)
1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。
39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック宣教師の歌とハープに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハープによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシェル神父
1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。
1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。
1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。
2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。
2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

書籍紹介　　十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書　　翻訳刊行

『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話

〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス
訳者：九里 彰
判型：B6 判並製
ページ数：184 ページ
価格：本体 1,600 円+税
ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016
発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアーヌム教授。2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里　彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美　編

A５判・312 頁・2500 円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など――危機にさらされている人間の救済の道を探る。

――――目次――――

序　「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
1　東日本大震災と宗教／中下大樹
2　宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
3　東日本大震災に思うこと／佐藤純一
4　脱原発の倫理／久保文彦
5　何のために働くのか／神谷秀樹
6　グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
7　私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
8　関係の倫理学／清水正之
9　宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
10　Ｖ・フランクルのロゴテラピー／桑原直己
11　「神の子となる」――カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
12　「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
13　エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所　TEL：03-3322-7601　FAX：03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

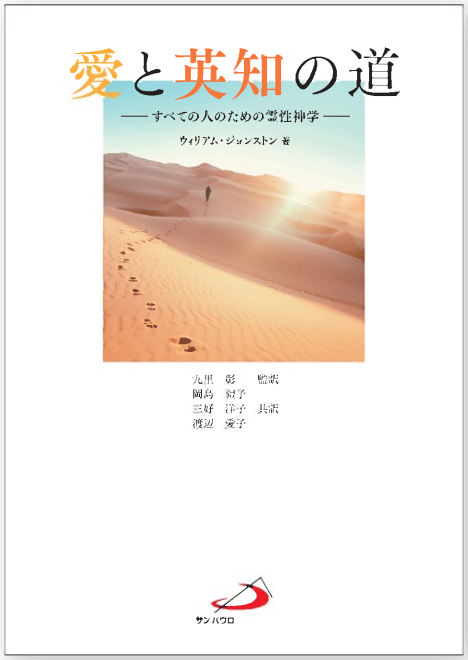
サンパウロ

愛と英知の道

―― すべての人のための霊性神学 ――

ウィリアム・ジョンストン 著

九里　彰　監訳
岡島　禮子　三好　洋子　渡辺　愛子　共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21 世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが 16 世紀に向けてなしたことを、21 世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渇望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。

第一部　キリスト教の伝統
第1章　背　景（1）
第2章　背　景（2）
第3章　理性 対 神秘主義
第4章　神秘主義と愛
第5章　東方のキリスト教
第6章　愛を通して生まれる英知

第二部　対　話
第7章　科学と神秘神学
第8章　修徳主義とアジア
第9章　神秘主義と根源的なエネルギー
第10章　英知と〈空〉

第三部　現代の神秘的な旅
第11章　信仰の旅
第12章　浄化の道
第13章　暗　夜
第14章　〈愛のうちにある〉
第15章　花嫁と花婿
第16章　一　致
第17章　英　知
第18章　活　動
第19章　社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン　William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエズス会に入会し、26 歳で来日。
32 歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルペ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85 歳で帰天。

• A5判 • 600頁 • 並製 • 定価 3,400円+税 • ISBN978-4-8056-0064-1　C0016

第2版
好評発売中！

福者マリー＝ユジェーヌ神父に導かれて

十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5　C0195
定価**540**円（税込）
【聖母文庫】287

マリー＝ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。（「はじめに」より）

神と親しく生きる
いのりの道

福者マリー＝ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャール 著
伊従 信子 訳

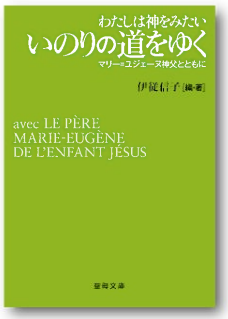
ISBN978-4-88216-307-7　C0195　【聖母文庫】246
定価**540**円（税込）209頁

わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

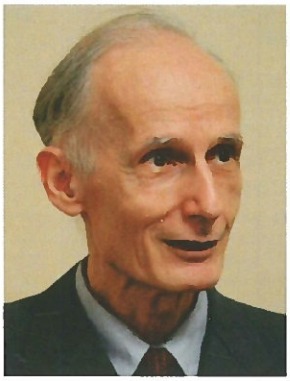
マリー＝ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8　C0195　【聖母文庫】268
定価**648**円（税込）281頁



ご注文・お問い合わせ先
聖母の騎士社　〒850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080　FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

（全五巻）四六版・４３４頁～６２８頁

各巻　本体 3、８００～5、０００ 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は４０余年の著述活動による１５０余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価（本体＋税）
第1巻	**Ⅰ　超越体験　—宗教論** 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全 11 作、434p	9784862852151 3,800 円＋税
第2巻	**Ⅱ　真理と神秘　—聖書の黙想** 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全 35 作、544p	978-4862852175 4,600 円＋税
第3巻	**Ⅲ　信仰と幸い　—キリスト教の本質** 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全 38 作、628p	9784862852205 5,000 円＋税
第4巻	**Ⅳ　思惟の歴史　—哲学・神学的小論** 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全 41 作、448p	9784862852212 4,000 円＋税
第5巻	**Ⅴ　自己の解明　—根源への問いと坐禅による実践** 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全 35 作、470p	9784862852229 4,200 円＋税

●リーゼンフーバー，クラウス［Riesenhuber, Klaus］

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長（-2004）。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知　泉　書　館　〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

朝日カルチャーセンターの

通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5 用紙）に、深読箇所で特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由にご自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解読」（A４2 枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解読」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

＊費用：6 ヶ月（20,360 円）。納入は 4 月、7 月、10 月、1 月。継続の場合 19,130 円。

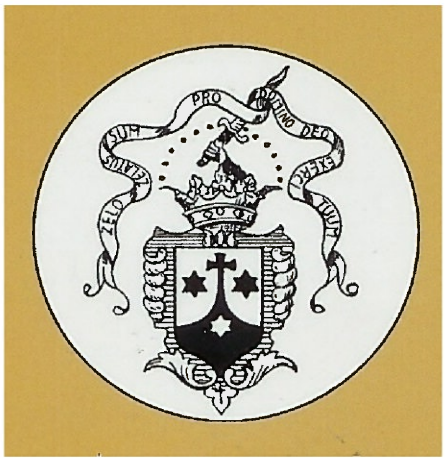
＊講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

＊問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel:０３－３３４４－２５２７（直通）

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）

東京 上野毛 霊性センター

黙想企画　＊＊上野毛 聖テレジア修道院（黙想）＊＊
（２０２２年～）

・祭日のミサに参加するために
　　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時
【クリスマス】
　１２月２４日(土)～２５日(日) 朝食 ≪講話なし、夕食なし≫

・聖書深読黙想会(土曜日１７時～日曜日１６時)　大瀬高司 神父
　　２０２３年
　１１月　５日～　６日　　２月２５日～２６日

・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日１０時～１６時・昼食付) カルメル会士
　１１月１６日　１２月２１日
　２０２３年　　1月１８日　　2月１５日　　3月１５日

・キリスト教霊性入門(木曜日１０時～１６時　昼食付)　松田浩一神父
　１１月３日　１２月８日
　２０２３年　　1月１２日　2月２日　3月２日

・一泊黙想会　(土曜日１６時～日曜日１６時)　カルメル会士
　　２０２３年
　１１月１９日～２０日　　1月１４日～１５日
　　3月１８日～１９日

・奉献生活者のための黙想会　(初日１７時～最終日朝食)　カルメル会士
　１２月２７日(火)～２０２３年　1月　５日(木)

・召命黙想会(男女)４０歳まで(初日１６時～翌日１６時)　カルメル会士
　１１月１１日(金)～１３日(日)

・カルメル会召命黙想会(男子)４０歳まで（初日１６時～最終日１６時）

カルメル会士

２０２３年

２月　４日(土)～　５日(日)

・特別黙想会(初日２０時～最終日１６時)Sr.伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

１１月２５日(金)～２７日(日)

＊　日程、指導司祭は変更される可能性もあります。 お申込みの際には、ホームページ（http://www.carmel-monastery.jp）なども合わせてご覧下さい。

＊　こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。

＊　間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・E メール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院(黙想)
Tel:03-5706-7355　　Fax:03-3704-1789
E メール：mokusou@carmel-monastery.jp
ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp

一日黙想会

テーマ：『カルメル会聖人に学ぶ黙想会』

＊毎月第三水曜日（８月はお休み）

＊10 時～16 時　　3,500 円（昼食付）

＜2022 年度開催予定日（2022 年４月～2023 年３月）＞

2022 年　~~4 月 20 日　5 月 18 日　6 月 15 日　7 月 20 日~~
~~9 月 21 日　10 月 26 日~~　**以上終了**
（＊第４週）
11 月 16 日　12 月 21 日

2023 年　1 月 18 日　2 月 15 日　3 月 15 日

コロナの状況により中止となることもございます。
当面は少人数(定員 10 名)での開催とさせていただきます。

＊当修道院司祭が交代で指導いたします

今泉　健　神父
ジョニー　神父
志村　武　神父

お問合せ・お申込み: 〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

Tel: ０３－５７０６－７３５５　Fax: ０３－３７０４－１７８９
E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の霊性を生きることをとおして教会に生涯を奉げる道があります。
聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証ししていく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思います。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2022年　~~4月2日（土）～3日（日）~~　16時～翌日16時

~~7月　9日（日）～10（日）~~　〃

~~10月29日（土）～30日（日）~~　〃

2023年　2月 4日（土）～5日（日）　〃

会費：￥5,000（3食付き）

＊お問合せ　お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL.03-5706-7355　　FAX.03-3704-1789

Eメール　mokusou@carmel-monastery.jp

宇治カルメル会　黙想会案内
(2022 年度～)

【一般のための黙想】　中川博道神父
１泊２日（土曜 午後５時～日曜午後４時）
5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始

２０２３年
１/１４～１５　２/１８～１９

【聖書深読】（午前 10 時～午後 4 時）中川博道神父

１１/１９
２０２３年
１/２１　２/１１

【水曜黙想会】（午前 10 時～午後 4 時）中川博道神父

１１/２３

【祈りの学校】（木曜 午前 10 時～午後 4 時）松田浩一神父

１１/３　１２/８

【カルメルの霊性】（午後５時～午後４時）中川博道神父

十字架の聖ヨハネ　１２/１７(土)～１８(日)

【奉献生活者の黙想】（午後５時～午前９時）一般可

１２/２７(火)～１/５(木)　中川博道神父

【祭日のミサに参加するために】
＊＜クリスマス＞

１２/２４～２５

チェックイン午後４時以降可、チェックアウト午前１１：３０
(講話なし 食事つき)

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸ、はがき、Ｅメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前９時～午後５時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合せ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016　Fax　0774-66-1191
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/

新企画！

松田浩一神父（カルメル会）による黙想会

「祈りの学校」

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。

すべて木曜日　10：00～16：00

~~5/19　6/2　7/7　9/1　10/13~~ 終了　11/3　12/8

持参するもの・・・筆記用具・ロザリオ

お問合せ・お申込みは,FAX、ハガキ、E-mail にてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39－12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax　0774-66-1191（聖テレジア修道院（黙想）専用）

E-mail：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

諸所の企画案内

真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山　２０２２年 － 祈りの集いのご案内

イエス様のように祈る

毎月第２木曜日（１０:００～１５:００）

指導者　フランコ神父

１月１３日　「御旨を行う」(詩編４０：９)
２月１０日　「私が父の家にいるのは」（ルカ２：４９）
３月１０日　「イエスも洗礼を受けて祈っておられると」（ルカ３：２１）
４月　７日＊　「イエスはひざまずいてこう祈られた。父よ、
　　御心なら、この杯を」（ルカ２２：４２）
５月１２日　「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます」（マタイ１１：２５）
６月　９日　「イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた」
　　（ルカ６：１２）
７月１４日　「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します」
　　（ヨハネ１１：４１）
８月　　休み
９月　８日　「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」（ルカ２３：４６）
１０月１３日　「イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて」（ルカ２２：１９）
１１月１０日　「イエスは天を仰いで言われた。父よ・・・」（ヨハネ１７：１）
１２月　８日　「天におられる、私たちの父よ・・・」（マタイ６：９）

予約は前日の１６：００まで

・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先
真命山　諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com
tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、

予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を

現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を

当会のHPに掲載いたしますので、

そちらをご覧いただければ幸いです。

担当　中山真里

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ノートルダム　・　ド　・　ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

http://sadhana.jp/　　申込み受付・・開始日の８日前まで

コース	日　時	指導	開催場所	申込み
入門Ｃ	12/4(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会 リヒト宣教室（市ヶ谷）	来間(くるま)　裕美子※ 090-5325-2518 sadhana12378@ yahoo.co.jp
広島サダナⅠ	2023 年 1/7(土)9:00- 9(月・祝)16:00	Fr植栗 Fr アレックス	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター 受付デスク 082-239-0034
フォローアップ	1/15(日) 9:30-17:00	Fr植栗	シャルトル聖パウロ修道女会九段修道院　（九段北）	来間(くるま)　裕美子※
フォローアップ新Ⅰ	1/22(日) 9:30-17:00	サダナチーム	援助修道会 リヒト宣教室(市ヶ谷) ※ミサは無し。イスでの黙想です。	来間(くるま)　裕美子※
名古屋 サダナⅡ ※前半・後半合わせて参加できる方のみ申し込み可能	【前半】 2/4/(土)9:30- 2/5(日)18:00 【後半】 2/11(土)9:30- 2/12(日)18:00	Fr植栗	聖霊会　八事修道院 ミッションセンター （名古屋市昭和区）	攪上(かくあげ)暁子 050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
サダナⅡ	2/22(水)17:30- 2/26(日)16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野毛修道院・黙想の家 （世田谷区上野毛）	来間(くるま)　裕美子※

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518（来間）までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子　Tel＆Fax ： 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナⅠを終えていること

●入門Ｃへの参加…入門Ａまたは入門Ｂを終えていること。

念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日
　　１４：００～１６：００(講話と念祷)
主催：慈しみ深き会

指導：九里（くのり） 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

２０２２年度予定
予定しておりました「念祷の集い」は、コロナウィルス感染のため、開催を中止しております。秋口からの再開を予定しておりましたが、いまだ感染の終息が見えない状況の中、今しばらく中止させていただきます。
再開する場合は、この紙面上にて再度お知らせいたします。

連絡先：篠原 三恵子
Tel:042-473-6287
e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容･日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

『霊性センターニュース』
＊郵送お申込みのご案内＊

ご郵送は、基本的に 1 月から 12 月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から 12 月までとなります。
例：6 月申込の場合は、7 月号~12 月号（但し 8 月号は休刊）となり、
5 冊となります。　ご希望の月数×250 円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８４
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等ご明記ください。
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院　「霊性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

インターネットから読める様になりました

『霊性センターニュース』バックナンバーを
宇治カルメル会のホームページに掲載してます。
PC 版のみ　PDF 形式
宇治カルメル会修道院ホームページ
http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/
「カルメル霊性センターニュース」をクリック

男子跣足カルメル修道会のホームページ
http://www.carmel-monastery.jp
Google：「カルメル会」で検索できます

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき　・・・つぶやき・・・

11月、教会は典礼暦の終末の中で、死者を記念しながら過ごします。

歳を重ねてきて、親しい人々、人生を支えてくださった多くの人々が、向こう側から、しかし、身近で見守っていてくださることが伝わってます。その人々と過ごさせていただいたお姿から励ましや、導きも伝わってきます。

私を洗礼に導いてくださった宣教師司祭との最期の時は、いつも私を勇気づけ励ましつづけてくれます。

八十歳を超えて大きな手術を受け、言葉も少々ご不自由になり、車椅子で過ごしておられる中で、見舞うチャンスがありました。二日間、病院を訪ね、思い出話などをしながら楽しく過ごしました。その別れ際に、その司祭は静かに、晴れ渡った空を窓越しに眺めながらおっしゃいました。「昔の事をこうして思い出しても、私に自慢できる事は何もありません。本当にただ感謝するばかりです」と言われました。それはとても明るい静かで平和なお姿でした。

その帰途、ふっと思い出しました。私が高校を卒業してまもなく教会に通い始めたころ、ある日、四十代半ばであったその司祭は真顔で、「あなたは老後をどう生きていくのですか？」と尋ねられました。面食らった私は「そんなことは考えてもいません。私にはまだ関係ありません」とこたえました。すると「人は一日一日、歳をとっていきます。それがあなたに関係ないということはありません。私達皆に必ず訪れる将来について、準備しておかなければいけません。今日から私達は準備をしましょう！　齢を重ねてしまったその時になって、こうなろう、ああなろうと思っても難しいでしょう。最期まで皆から受け入れられる、豊かな人生を生きていくためには、譲るべきものは譲り、本質的なものを見抜いて大切にする、そんな訓練をしていかなければいけません」といわれました。

そして、はっきりとこうもおっしゃいました。「わたしが歳をとった時、車椅子に乗せられて、一日中どこかにおきざりにされるようなことになるかもしれません。でもそんな時、車椅子に座ったまま、一日中感謝する者でありたいのです」。

病院の帰り道、この司祭はご自分で口にされた事を、四十年近く本当に実行されながら齢を重ねてこられたことを、あらためて思いめぐらしました。今も、あの時の明るいそしてユーモアのある感謝に満ちた平和なお姿が、私を支えていてくださいます。

（中川博道 o.c.d.）

REGINA
DECOR
CARMELI